

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・中間報告・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		中間報告		学校関係者評価 (11月15日実施) 9名 の委員より中間評価	総合評価（3月1日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・工業の専門性の向上を図り、実際的・体験的学習に重点を置くとともに、産業界の求める人材を育成するため、知識・技術の習得のみならず、主体的に学ぶ意欲の向上を図り、学校全体でカリキュラム・マネジメントに取り組む。	①生徒が主体的に学習に取り組むことで、学んだ知識や技能がより確かなものになる魅力ある授業の展開を目指す。 ②情報端末を積極的に活用して、デジタル社会の実現に向けた人材の育成を図る。 ③生徒の多様な学習ニーズに応じた教育課程の編成を目指す。	①生徒が自ら課題を解決するために必要な能力の育成が図れるよう、授業計画や評価の方法を工夫する。 ②様々な機会で情報端末の活用を進めるとともに、研究授業・研究協議を開催する等、組織的に改善が図れたか。 ③多様な学修機会を生徒に提示して、生徒が自分の進路にあつた学習が行えるよう環境を整備していく。	①生徒自身が主体的に授業に取り組む授業を計画、展開することができたか。また、その評価を活用することができたか。 ②情報端末を活用した授業実践のための技術や情報を共有することができたか。また、組織的に改善が図れたか。 ③キャリア教育と併せて、生徒が希望する進路や学力の向上を図ることができる環境が整備できたか。	①単元テストや授業中の課題への取組状況により評価を行うことで、生徒を様々な観点から評価し指導に生かすことができる。 ②教員による情報端末の活用が進み、生徒の学習が効果的に進められている。 ③資格取得の勉強や発展的な学習内容を補習等により提供することで生徒の進路に沿った学習環境を提供できている。	①評価をその後の振り返りやさらなる指導の充実へ生かすための取組を組織的に進めていくことが必要となってくる。 ②教員から生徒へのICT活用はある程度進んだが、生徒が様々な授業の中で積極的に情報端末を用いて、自ら課題解決を図るまでには至っていないので積極的な活用を推進していく必要がある。 ③今後も生徒の希望に沿った学習環境を提供できるよう推進していく。	○学校経営に対して、明確な目標が設定され、達成に向けて具体的な取り組みが実践されている。 ・とてもそう思う 55.6% ・そう思う 44.4% ○生徒の自主性及び創造性が育成されている。 ・とてもそう思う 66.7% ・そう思う 33.3% ○新しい学びの手法や取り組みが充実している。 ・とてもそう思う 66.7% ・そう思う 33.3%	①新しい教育課程で、指導と評価の計画に基づき、単元テストや日頃の取組など、様々な観点から評価を行い、それをフィードバックすることで、その生徒に応じた指導を行うことができた。 ②登校しても教室に入れない、不登校ぎみである、怪我や身体的な理由で登校できないなど、様々な生徒がいる中で、日常の取組を十分に發揮して、オンラインを活用した双方授業を行い、授業の遅れを少しでも軽減するとともに、進級に向けたサポートをすることができた。 ③資格の取得や転籍・転校により入学してきた生徒に対応した補習を行うことで、生徒のキャリアの形成に寄与することができた。	①いろいろな情報を共有することで、個人、学年または教科による指導を、学校として、最適な指導を継続的に行えるように指導体制を整えていく。 ②今後も、オンラインの活用や、登校が難しい生徒への支援体制の確立などを、学校としていつでも提供できるよう研修等の取組を行っていく。 ③サポート体制の充実と生徒のキャリア形成の一助となるべくさらなる学習環境の改善を目指す。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	・豊かな人間性の育成を図るために、学校生活の基礎を作るための生徒支援・教育相談の充実とともに、個に応じた生徒支援と相談体制の一層の充実により生徒理解に努め、生徒が安心して学べる学校づくりを進める。 ・生徒が中心となって、活動する学校行事を通して、社会に主体的に関わろうとする意欲を高める。	①個に応じた支援体制の充実をめざし、職員全体の生徒指導・支援スキルの向上を図る。 ②生徒が積極的に参加できる学校行事の運営を目指す。	①職員研修やケース会議等を実施し、心の健全・身体の安全等に関する支援スキルを向上させる。また、生徒情報交換会やかながわ子どもサポートドック等を実施し、情報共有と生徒理解を深める。 ②生徒が中心となって学校行事を運営できるように取り組む。少人数ながらも積極的にイベントに取り組めるような環境づくりを行う。	①生徒個々の理解を深め、個に応じた支援・指導を実施することができたか。生徒の日常行動や意識が向上したか。教員と生徒の間で信頼関係を築けたか。 ②生徒が中心となるような行事の運営や実施ができたか。多くの生徒が積極的に行事に参加できたか。	①職員研修を通じて職員全体の支援スキルを向上させた。また、個別の支援が必要な生徒に対して手厚い支援を行っている。 ②文化祭・前夜祭では企画段階から委員会、HRと連携して準備を進めることができ、体育祭では委員会を軸に生徒が主体となって企画運営することができた。	①個別対応を要する生徒が増えたときに、対応しきれいか不安がある。養護教諭及び一部の担任に負担が集中している。担当グループ全体で業務等を分散し、一部の職員に負担が集中しないようにする。 ②引き続き生徒が主体となる行事にするための仕組みづくりを行う。	○生徒の自己肯定感や社会性の発達に向けた取り組みがなされている。 ・とてもそう思う 50% ・そう思う 50% ○生徒が学校行事や部活動に積極的に参加・活動している。 ・とてもそう思う 66.7% ・そう思う 33.3% ○かながわ子どもサポートドックの実施はじめ生徒支援においてきめ細かい取組をされていると存じます。スクールカウンセラー等との連携をふくめ今後さらなる相談体制および予防・早期発見的な支援の充実に向かわれているものと拝察いたします。	①生徒の問題が表面化したときに、以前と比較して円滑に教職員が連携できるようになった。チームティーチング、生徒情報交換会、職員研修等の効果もあり、授業においても以前と比較して落ち着いた環境で行えるようになった。ただ、不登校傾向や集団に馴染めない生徒が更に増えたときに、対応できるようする必要がある。 ②体育祭の新競技に向けて、生徒が企画から実施まで主体的に行動し、新たな競技を体育祭に加えることができた。学校行事において生徒が中心となって運営し、多くの生徒が参加する場を提供できた。生徒が準備段階から企画に関わることで、自分の活動に責任を持つことができた。他者とのかかわりを持つことで社会性を育み、生徒の自信に繋がった。	①教室に入れない、または集団に馴染めない生徒への対応に關し、現在は養護教諭の負担がかなり大きくなっているので、可能な限りグループ全体で対応する。 ②引き続き、生徒中心となる行事運営を目指して、生徒が参加できる仕組みを作っていく。

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		中間報告		学校関係者評価 (11月15日実施) 9名 の委員より中間評価	総合評価（3月1日実施）		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	・多様な生き方に対応した情報収集や情報提供を行い、働くことを理解できるよう入学から卒業までの体系化したキャリア教育を確実に実践し、社会を構成する一員としての自覚を育む進路指導・支援に取り組む。	①キャリア教育実践プログラムを基に、進路ガイダンスやLHRを活用した体系的な計画を立て、生徒一人一人の進路を実現する。 ②生徒の就職に対する考え方、職種や業種研究、社会人としてのマナーを学ぶ機会を設け人材育成を図る。	①昨年度に引き続きキャリア教育実践プログラムを共有するため様々な場面で発信していく。 ②年に引き続き、年間を通して各学年の進路ガイダンスとLHRの取組みを体系化する。 ③インターンシップを実施し生徒のキャリア教育の充実を図る。	①キャリア教育実践プログラムの情報発信ができたか。 ②進路ガイダンスとLHRの体系化ができたか。 ③7月の合同企業説明会参加は、イベントが乱立している時期であったため全体の行事予定の見直しを図る。 ④毎年インターンシップを実施するにあたり、学校や企業との連絡体制の見直しを行う。	①学校ホームページ掲載や校内掲示板への貼り出しで内外への発信が行えた。 ②インターーンシップを実施することで、生徒の就職に対する意識や心構えを改善できたか。	①発信はできているが、それが届いているかが課題である。有効な方法を模索する。 ②進路ガイダンスを6月に実施、7月に合同企業説明会に学校全体で参加し、生徒の進路への考え方、LHRの位置づけを確立することができた。 ③インターンシップを実施し、体験した生徒は自身のキャリア育成を図ることができた。	○生徒や保護者に向けた進路指導やキャリア教育が適切に行われている。 ・とてもそう思う 66.7% ・そう思う 33.3% ○進路指導が充実している。 ・とてもそう思う 66.7% ・そう思う 33.3% ○教室や実習室などの施設について必要な設備が整備・充実している。 ・とてもそう思う 44.4% ・そう思う 55.6%	①キャリア教育実践プログラムをより内外に浸透させるために、新入生オリエンテーションや学校説明会でも発信した。 ②進路ガイダンスは次年度以降にも繋がる形をつくることができた。 LHRの体系化も今年度で土台をつくることができた。 進路ガイダンスの他に、合同企業説明会に学校全体で参加し、生徒の進路への意識づけができた。 ②インターンシップを実施し、参加した生徒は進路先として考えている企業の業務形態や、アルバイトでは経験できない業務内容、働くことの意味を学ぶことができ、就職活動に向けての意欲を高めることができた。	①今後もキャリア教育実践プログラムの情報を様々な場面で発信していく。 ②進路ガイダンス、LHRとともに実施していく中で、生徒の状況を把握し、生徒の声を聴くことで生徒の進路実現に近づくための時間をつくっていく。 今年度は、前期進路ガイダンスと、合同企業説明会の期日が近かったため、日程や行事について見直しを行う。 ②インターンシップを実施するにあたり、仲介企業との連携方法の円滑化に向けて改善をする。
4	地域等との協働	・地域・企業との連携・協働を通して教育活動を活性化させ、地域に開かれた信頼される学校づくりを推進する。 ②学校PRのため、定期的HPの更新に努め中学生やその保護者への学校情報の発信に努める。	①地域に根ざした学校づくりを目標に、貢献活動や地域との連携・協働していく。 ②本校HPを活用して学校のPRや情報を発信する。	①地域行事への参加等貢献する意識を啓発する。企業との積極的ななかわりを持つ。 ②本校HPを活用して学校のPRや情報を発信する。	①全校生徒が、地域貢献活動に参加できたか。 ②HP更新回数が増えたか。学校説明会において本校の教育内容が理解されたかをアンケートで理解が得られているか。	①地域清掃活動を10月26日に実施した。 ②4月よりホームページの更新の機会を増やし最新の情報を掲載している。 学校見学会回数を3回に増やした。	①全校一斉にはできないので、学年ごとに2学期に計画し実施する。 ②学校説明会の申し込み数は例年と変わらない。増加に向けた取組方法を検討する。	○中学生や地域への広報活動や情報提供が活発に行われている。 ・とてもそう思う 33.3% ・そう思う 44.4% ・あまり思わない 22.2%	①地域清掃を美化委員会で1回学年別に1回で計5回2学期に実施した。 今後も地域に根ざした学校づくりを行う。 ②頻繁にHPの更新を行った。 中学3年生を対象とした学校見学会を4回、学校説明会を2回実施した。 令和8年度から既存の工業科に普通科を新設するので中学生に周知する方法を検討する。	①2学期の地域清掃活動は継続して行っていく。 ②中学生の進路先の多様化が進んでいるが、本校HPを活用し学校の魅力を発信していく。
5	学校管理 学校運営	・不祥事防止の徹底に取り組むとともに、防災意識を高め学校防災力の向上を図る。 ・生徒と向き合う時間を確保するため、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①常に危機管理意識を持ち信頼される学校づくりを目指す。 ②ICTや教育データー等を有効活用し業務を効率的に行い生徒に向き合う時間を確保する。	①毎月不祥事防止研修会を職員会議前に行う。 ①適正な私費会計処理に努め、事故防止の意識をもって業務に当たる。 ①防災意識を高めて災害時の対応能力を身に付けさせる。 ②職員連絡ツールの活用を図り業務の効率化を目指し生徒と向き合う時間を確保する。	①毎月不祥事防止研修会が実施できたか。 ①私費会計が適正に処理されているか。 ①避難訓練を計画的に実施できたか。 ②Teams掲示板を有効活用し業務の効率化が図れているか。 ②面談時間等の時間の確保が取れたか。	①全職員で毎月不祥事防止研修会を実施している。 ②職員連絡ツール(Teams)掲示板を使い、打合せの内容や連絡事項の伝達がスムーズに行われている。	①7月17日に1年生にDIG訓練、8月26日全校でかながわシェイクアウト訓練を実施。1月に全校で避難訓練を実施予定である。 ②職員が共有する情報機器、付属品の管理体制をしっかりと行う仕組みを改善する。	○職員の仕事の効率化及び最適化がなされている。 ・とてもそう思う 33.3% ・そう思う 55.6% ・あまり思わない 11.1% ○学校内外の安全対策と防災意識思った取り組みがなされている。 ・とてもそう思う 22.2% ・そう思う 77.8% ○一部の教職員への負担集中については、質のよい教育を継続する上で重要だと思いますので、報告にあるとおり分散化し、教職員の適材適所を考慮しながらご対応がよいかと思います。	①令和5年度分県立学校財務事務調査6月19日において、定期制学校徴収金・団体徴収金の財務処理調査において指摘された事項2点について改善をした。 ①毎月不祥事防止会議、不祥事防止研修会を開催し未然防止に努めた。 ②2回の防災訓練を実施した。 ②ITCの本格的活用が4年を終えて、職員も業務の効率が上がった	①引き続き不祥事防止に努める。 ①生徒の防災意識を高めていく。 ②今後もICT活用を進め業務効率化に努め生徒に向き合う時間を確保する。